

【総合的な学習の時間】 第7回授業 指導案

芝浦工業大学柏中学高等学校 探究科

1. 単元名 情報の収集-後編

2. 本時の概要

本時は、日常的な自己省察を促す「LIFEログ」の習慣化と、探究活動における「情報の収集」の深化を二つの柱としています。

探究活動においては、前回のテーマ設定を踏まえ、具体的な情報収集に移行します。リサーチ・クエスション(RQ)や仮説を立てるためには、「実態の把握」と「原因の解明」という2つの視点による正確な情報収集が不可欠です。また、図書・新聞・Webサイトといった情報源ごとの信憑性と特徴を理解させ、目的・用途に応じた使い分けを学びます。特に社会の動向を捉える手段として「日経電子版 for Education」を導入し、信頼性の高い情報に触れる環境を整えることで、生徒の探究活動の質をより高度なものに引き上げることをねらいとしています。

3. 本時の目標

- **LIFEログの意義と方法の理解:** 「LIFEログ」の意義とループリック(レベル3)を理解し、日々の体験から自己の成長や課題を言語化する「成長に繋がる振り返り」を記述できるようになる。
- **情報収集の重要性の理解:** 探究における情報収集には「実態の把握」と「原因の解明」の2視点があることを理解し、図書・新聞・Web等の情報源の特性に応じて適切な情報を収集することができる。
- **日経電子版 for Educationの活用:** 日経電子版 for Education の活用方法を習得し、自分の探究テーマに関連する信頼性の高いニュース記事を主体的に検索することができる。

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料:
 - 授業スライド 第7回
- 使用教材(副教材):
 - 岡本尚也(2024)『ゼロから始める探究活動 課題研究メソッド ZERO』新興出版社啓林館
- 参考文献:
 - 佐藤郁哉(2024)『リサーチ・クエスションとは何か?』筑摩書房
 - 登本洋子・伊藤史織・後藤芳文(2023)『改訂版 学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』玉川大学出版部

5. 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【1時限目】		
3分	①本時の流れの確認	
12分	②LIFEログの意義理解と記入 ・本時の流れを確認し、「LIFEログ」の概要と意義を学ぶ。 ・「今日の振り返りが明日の自分をつくる」という視点を持ち、今月の活動(教科学習、探究、行事等)を振り返る。 ・事実の記録だけでなく、自身の変容や次への行動を含む「レベル3」の記述を目指し、内容を端的に表す「タイトル」を付けてログを記入する。	・ループリックを提示し、単なる感想ではなく「成長に繋がる振り返り」になるよう個別指導を行う。 ・項目が足りない場合は、スライドの例を参考に項目の複製を許可する。
20分	③情報収集の視点とツールの導入 ・情報収集には「実態の把握」と「原因の解明」の2視点があることを、医療の診察を例に理解する。 ・図書(信憑性)、新聞(社会関心)、Web(速報性)という各情報源の特性と使い分けを学ぶ。 ・信頼性の高い情報源として「日経電子版 for Education」の活用法と注意事項を確認し、各自でログインを行う。	・情報収集の不足が「診断ミス(RQや仮説の誤り)」を招くリスクを伝え、調査の質への意識を高める。 ・新聞は社によって視点が異なるため、複数記事の比較が重要であることを説く。 ・全員が確実に日経電子版へアクセスできるよう、ログイン手順のフォローを丁寧に行う。
15分	④個別探究ワークと記録 ・探究ノートの「日々の活動記録」に本日の予定と目標を記入する。 ・テーマ未完了者はSTEP1～4を優先し、完了者は日経電子版や図書等を用いて「情報の収集」を開始する。 ・収集した情報をRefNaviや探究ノートに記録し、得られた答えからさらに「新たな問い」を立てて思考を深める。	・書籍利用時には、RefNaviに請求記号等の作業メモを正しく残すよう指導する。 ・「問い」に詰まっている生徒には、問いの種類(7つの型)や5W1Hの質問法を提示し、具体的なリサーチ・クエスチョンに導く支援を行う。
【2時限目】		

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
50分	⑤本時の振り返りと記録 ・授業終了10分前に、本日の活動内容と次回への課題を記録する。	・「日々の活動記録」を毎時間記入させ、活動の自己管理を徹底させる。